

**251** 脳主幹動脈狭窄症における Diamox 脳血流増

加率の臨床的意義 -PET[O-15] gas study との比較-

橋川一雄、山本晴子、奥 直彦、清家裕次郎、額田 勝  
森脇 博、岩本文一、西村 洋、渡辺嘉之、松本昌泰  
堀 正二、西村恒彦 (阪大 放部、一内、トレーサ)

慢性期脳血管症例を対象とし、I-123 IMP SPECT によって求めた Diamox 負荷前後の MCA 領域対小脳集積比 (RC, DC) 及び血流増加率 (PR) を、脳主幹動脈狭窄の有無により、狭窄側 (A 群)、狭窄対側 (NA 群)、非狭窄側 (NP 群) の 3 群に分け PET gas study の結果と比較検討した。A 群は、NP 群に対して DC 及び PR の低下と CBV の上昇を、また、NA 群に対して DC の低下と CBV の上昇を認めた ( $p < 0.01$ )。PR と CBV の間に負の相関傾向を認めたが、OEF を含む他の変数間に関連を認めなかった。Diamox 脳血流増加率は CBV との相関を示し、OEF 上昇前の軽度の循環不全を評価できる指標であると考えられた。